

## 第1回鳥取市スケートリンク検討委員会 会議概要録

平成24年7月6日（金）午前10時～12時  
市役所本庁舎4階第2会議室

出席：委員：岩本委員、川口委員、木嶋委員、小山委員、坂出委員  
高井委員、林田委員、藤野委員、本名委員（50音順）  
教育委員会：中川教育長、浅井課長、坂本係長、清水主任

### 1 開会

**事務局**：ただ今から、第1回鳥取市スケートリンク検討委員会を開会いたします。本日は、全員出席ですので、委員会が成立していることを報告します。

私は、本日の進行を務めます、体育課長の浅井と申します。どうぞ、よろしくお願ひいたします。開会に当たり、中川教育長がごあいさつ申し上げます。

### 2 あいさつ

**中川教育長**：皆さまおはようございます。皆さまにはお忙しい中、委員を快くお引き受けくださいます、ありがとうございます。さて、ご存じのとおり、平成18年1月に日本海リッチランドスケートリンクが閉鎖してから6年半が経過しております。日本海リッチランドのスケートリンクでは、お亡くなりになりました吉岡美根子さんに本当にお世話になって鳥取県のスケート界が支えられていたところですが、それから6年半も過ぎています。

市は、平成19年度に県にスケートリンクの建設をお願いしましたが、県からは、スケートリンクは、地域住民の利用が中心となることから市で建設するよう回答を受けております。

しかしながら、スケート競技は、国体の正式種目であり、県との協議を重ねる必要があると考えております。現実的なことを見ても、中国5県でスケートリンクが無い県は、本県のみです。そのような中で、県外の施設を使いながら国体に参加しているというのが現状です。

本日より皆さまにご審議いただくのは大きく分けて3点ございます。1点目は、スケートリンクの必要性に関すること。2点目は、施設規模、候補地など施設整備の基本的な考え方に関すること。3点目が持続可能な運営方法に関することです。

皆さまの、それぞれの立場から、忌憚のないご意見をいただき、この会の結論付けをしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

### 3 委員紹介

**事務局**：委員の皆さまには、「委嘱状」を机上配布しております。また、次第の裏に委員名簿と設置要綱を載せております。委員の皆さま初顔合わせですので、恐れ入りますが、自己紹介いただきたいと思ひます。それでは、小山委員様の方から順によりよろしくお願ひします。（各委員自己紹介）  
続いて、事務局の職員を紹介します。（各職員自己紹介）

### 4 委員長及び副委員長選出

**事務局**：次に、この委員会の委員長及び副委員長を選出させていただきたいと思ひます。

設置要綱では、委員長及び副委員長は、委員の互選により選出すると定められています。

皆さまの方でご意見がございましたらお願ひいたします。（委員から事務局案をとの発言あり）

それでは、委員長には、本名委員様、副委員長には、川口委員様にお願ひしたいと思ひます。

（異議なし）

委員長に選出されました本名委員長より、一言ごあいさついただきたいと思ひます。

**委員長：**委員長を引き受けさせていただく本名です。よろしく申し上げます。スケートリンクは平成18年以降閉鎖されており、保護者、教育界、スポーツ界、いろいろな要望があって本日に至っているとことと思います。この委員会は、色々な方面からメンバーがいらっしやっていますので、総合的な判断ができると思います。ぜひ皆さんの忌憚のないご意見をいただきながら、良い結論が出ることを期待します。どうぞよろしく申し上げます。

**事務局：**では、これより以降の議事進行は、設置要綱により、委員長が議長を務めることとしておりますので、よろしく申し上げます。

## 5 説明事項

(1) スケートリンクをめぐる情勢について

(2) スケート競技の現状・推移について

(3) スケートリンクの必要性について

※事務局が資料1によりプロジェクターで一括説明

## 《質疑応答》

**坂出委員：**中国地方のスケートリンクの設置者のくわしい状況を教えて欲しい。

**事務局：**サンビレッジ浜田は(財)浜田市教育振興事業団、湖遊館はNPO法人ひらたスポーツ・文化振興機構、岡山国際スケートリンクはマルエス冷蔵(株)、ヘルスピア倉敷アイスアリーナは岡山県スケート連盟と(株)K2ライフラボの共同運営、広島ビッグウェーブは広島市スポーツ協会、くだまつ健康パークはツルガハマランド(株)です。

**川口委員：**リッチランドを運営していた頃の年間利用者数は何人か。また、署名運動の署名数は。

**岩本委員：**リッチランドの利用者は、年間2万3千人程度、ピーク時は5万人くらいあった。署名は約1万人。

**林田委員：**私は30年間リンクを運営していた。開所当時は朝から並んでいた。冬期オリンピックの度にブームになっていた。長野オリンピックで清水選手が金メダルを取った明るる日には、人が増えた。6割くらいが小学生。通年では2月、春分の頃がピークだった。

**委員長：**学校体育の関係からご意見を。

**小山委員：**中学校にはスケート部は無いが、北中に個人登録の生徒がいる。生徒数が減り、部の数も減っている中でスケート部をつくることは難しい。

**木嶋委員：**鳥取県以外の中国地方の競技人口はどうなっているか。委員会が最終的に求めているものは、スケートもカーリングもできるような大きなものを目指すのか。それともリッチランドのような、こぢんまりとしたものをつくるのか。

**岩本委員：**岡山、広島は比にならないくらい競技人口が多い。

**藤野委員：**ホッケーも今ジュニアがいない。主力の平均年齢は33歳。その選手が故障すると国体出場も危ぶまれる。選手は米子が主力。規模は、公式スケートリンクの広さ(30m×60m)をぜひ整備して欲しい。

**事務局：**参考としてサンビレッジ浜田の状況は、リンクの大きさは、47m×30m。平成8年に6億7千万で建設し、用地に2億円、備品に2千万円。平成16年決算額は2千400万円。利用者数等詳細は次回報告する。市の目指す方向は、スケートに接する機会を提供することであり、規模については鳥取の現状を踏まえて今後検討したい。

**委員長：**中国地方の他県の利用者数、運営形態を次回までに調べていただきたい。

**川口委員：**鳥取県として他に誇れるリンクを。指導体制は他に誇れる。荒川選手はトリノオリンピッ

クの金メダルの後、アメリカにいたが、帰国後国内で最初に来たのが鳥取市。高橋選手も鳥取市で育ったと言っても過言ではない。その他の選手も鳥取を支援したいと言っている。リンクができれば、いろんなことが期待できる。

岩本委員：高橋選手は、倉敷出身で夏にリンクがなかったので、夏は鳥取市で練習していた。町田選手も倉敷。サンビレッジ浜田は公式大会ができない。カーリングくらい。

木嶋委員：鳥取県選手の成績が思ったよりもすごい。指導体制がしっかりしているなら、中途半端な施設ではなく、しっかりした施設を作った方が良いのでは。

岩本委員：岡山国際は、昨年、林田委員も加わって造られた。

委員長：岡山国際は、公式リンクか。

岩本委員：公式リンク。島根の湖遊館は宿泊施設が1か所しかなく、評判が悪い。大会は島根でもやるが、宿泊や交通の便が悪く、岡山か広島でという声が多い。ソチの次に韓国で冬期オリンピックがある。鳥取にスケートリンクが整備されれば、6年後にキャンプ地として利用してもらえる。

川口委員：世界陸上の時には、ジャマイカが鳥取でキャンプした。

木嶋委員：布勢陸上競技場も立派な施設だと商社の方から聞いている。それで福島千里選手も来ている。

委員長：児童は近年、外で遊ばなくなっている。他の施設で赤字になっているのかどうか。いろんなデータが必要。高井委員はどのような意見か。

高井委員：夏場に利用できるのはめずらしいのか。

岩本委員：島根もオールシーズンを計画している。

林田委員：オールシーズンに問題がなかったわけではない。夏場はコストがかかるので、周囲を断熱材で囲うなど工夫をしていた。全国から合宿を誘致して、優秀な指導者が指導する。

高井委員：夏場に岡山だけでは賄えないくらいで夏場は良いが、冬場はどうか。県外から来るのか。

岩本委員：荒川選手を育てた指導者や無良氏などを招致する。

坂出委員：私が委員を引受けるにあたり、周囲から何で今更スケートリンクをと言われた。スケートリンクを整備するなら資料をしっかり作って議会が納得するものを作るべき。夏場をどうするのか。

岩本委員：この施設は、商業施設としてではなくスポーツ施設としたい。

坂出委員：恐らく赤字になると思うので、それは税金で賄うことになると思われる。民間でできるならやっている。

岩本委員：レジャー施設からの脱皮が必要。

木嶋委員：経済波及効果はどうか。トレーニングジムのワールドウィングも有名選手が行っているから私も行ってみようとなっている。税金が使われるなら有効に使われるべき。

坂出委員：住民が納得するように。一般市民が納得する資料を揃える必要がある。昔、仕事で病院経営を担当したとき4年制看護師が欲しいので看護大学を検討したが、結局コストがかかりすぎるためできなかった。

木嶋委員：鳥取県のサッカー人口は全国で5番目くらい。サッカーに県や市が力を入れているのはなぜなのか。

## 6 協議事項

### (4) 検討委員会での調査審議内容について

### (5) 今後のスケジュールについて

※事務局が資料1によりプロジェクトで一括説明

## 《質疑応答》

委員長：本委員会での調査審議内容について説明があったが、事務局の考えを示してほしい。

**事務局**：スケートリンクの必要性については、必要と判断している。基本構想については、持続可能な運営ができるための提言をお願いしたい。判断材料として、他のスケートリンクの情報を提供するので、各委員の立場から施設の機能・規模、運営の方式、建設候補地の提言をお願いしたい。経済波及効果については、高井委員の協力を得ながら検討していきたい。

**委員長**：人口動態、経済波及効果、鳥取市のスポーツを含めた現状や最近のスケートリンクのデータ収集が必要。現在の資料では足りない。少子高齢化が進む中で運営できるかどうか。情報収集にあたり、ホームページだけではなく、実際に聞いたりする必要がある。

**小山委員**：東京の大学にいたが代々木は、季節型だった。広島も夏はプールにしている。

**木嶋委員**：プールも併せて検討したらどうか。

**岩本委員**：プールもとなると建設・運営コストも高くなる。スケート連盟もいろいろな所に視察しているが季節型は良くない。

**委員長**：季節型のデータも必要。

**岩本委員**：これからの施設は街中に作るべきだと、サッカーの講演があった。島根の湖遊館は郊外。

**委員長**：鳥取県で有利な点はあるか。人口、利用者は不利な点が多い。委員からこんなデータが欲しいという意見はあるか。

これまで、

- ① 施設の方向性は、幅広い層が利用できる施設か専門的な施設とするか。
- ② 鳥取県はスケート指導者がしっかりしている。
- ③ スケートリンク場を設置することで不利な点も出てくるが、それを乗り越えられるか。
- ④ 施設利用者はどの層を想定するか。
- ⑤ 他市町村の施設の現状の確認。
- ⑥ スケートリンク場設置の意義。

が意見として出てきた。今後は、これらの意見をもとに鳥取県、鳥取市のスポーツを考えて検討していきたい。

## 7 その他 ※特になし

## 8 閉 会

**事務局**：次回の日程調整は、後日個別にいたします。以上で本日の会議を終わります。ありがとうございました。